



表紙の写真

「甲州金」

戦国の時代、甲斐の国武田氏は信玄の時隆盛を誇っていた。その財政を支えたのが金山で、國內には数多くの金山が存在した。南部町十島金山、早川町の黒柱・保金山、塩山市の黒川金山、また信濃、駿河にと数知れない。その中で、毛舞山の山腹にある中山金山・内山金山・茅小屋金山の三つの金山は総称して「瀬之奥金山」と言い、西八代郡下都町にある。当時そこには「金山衆」と呼ばれた金鉱の採掘作業に従事する人たちが住んでいた。最盛期には鉱山町の様相を呈していた。初期のころの採鉱方法は「露天掘り」で次第に「坑道掘り」へと変わる。「甲州金」は甲斐の国に見られた特別な金貨で、「暮石金」とも呼ばれた金の粒で、やがて江戸時代に制度化された貨幣制度の先駆けでもあった。

(写真と文：浅川 毅)

「MUH」vol.17 1998.7.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・横田雅幸・久保田克一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男／石原由里子・高山ひとみ／

原田陽子／宮塚利雄・杉村聡・青木茂樹／

浅川毅・櫻克明

印刷／電算印刷株式会社

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した Mate (仲良) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム	2
テーマ クーラー 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
対談	4
山梨21 中橋 早苗さん (社)国際婦人教育振興会 山梨支部会長	
ホスト 早野 潔	
シルクに託して 女性の知恵を活かしたい	
「人を育てる」地域活動 学び合い、輪をひろげて	
黒板ひとつの教室で学ぶ 発展途上国の子供と女性	
トピックス	10
激動するアジア	
企業ウォッチング	13
セントラルコーポレーション 武内 佳久氏	
サークル訪問	14
甲府まちなかの音楽祭実行委員会	
セミナー	15
21世紀の街づくりへの胎動 Part2	
インフォメーション	16
甲府通運・早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨	
ようこそ歴史	18
野村宗貞 上野晴朗	
アートへのまなざし	20
ボクの美術品観察日記10 山本育夫	
トレンド	22
『源氏物語』を読んでみよう	
BOOK こんなところに山梨… BOOKコーナー 「一葉の雲」	23
滝を見るハイキング	24
石空川 精進ヶ滝 上野 巖	
甲府通運前史を訪ねる(10) 林陽一郎	25
ユーザー訪問	26
有限会社 井上工務店	
お家発見	27
上野 巖さん	
リレーエッセイ	28
住めば都 植松光宏	
ときのひと・FACE	29
トヨタホーム山梨 保坂 幸さん	
おしやれ グランパーク シューブラザチヨダ たべる 純手打蕎麦 千寿庵	30
お茶の間の民俗学(8)	
一ふるさと心の心と味(3) 志摩阿木夫	31
コラム	32
某月某日	

アイスキャンディー

江宮隆之

油蟬がうるさいほどに鳴く。じりじりと太陽は照りつける。麦藁帽子の縁が汗で濡れ、何度も手の甲で拭う。南アルプスの上には大きな入道雲が湧き上がっている。

「暑いわ。ひと雨来れば涼しくなるのに」「本当にねえ」。日傘を差した二人のおばさんとすれ違う。後から「チリン、チリン」と鐘の音が響く。自転車のブレーキが、ぎざーっとこすれる音もする。「にーちゃん、アイスキャンディー屋だ」「おい、十円持ってるか?」「ない。にーちゃんは?」「俺も、ない」。狭い路地で兄弟の横をすり抜けていく自転車。「チリン、チリン」。

「キャンディー屋さん」。窓が開いて、きれいな女の人が顔を出す。「二本ちょうだい」。自転車が目の前で止まった。おじさんは荷台の四角い箱から、アイスキャンディーを取り出した。

弟の、ものほしげな顔に気が付いた女の人が尋ねた。「あら……さんの子どもたちね。あなたたちも食べる?」「うん、いらぬ。……お金持っているけれど、いらぬんだ」。兄が見栄を張った。同情されているようで嫌だったのだ。「あら、そうお。折角の親切を、というように窓が閉まった」。

「だって今年は不景気で困ってお母ちゃんとお父ちゃんが話していたじゃんか。仕事が少ないって。人からめぐんでもらうのなんか辛いもの」。弟に言い訳をした。家の仕事は塗り物屋だった。近所では「ぬちやさん」と呼ばれていた。その年は例年になく父と祖父の仕事は暇であった。弟は黙って、角を曲がるアイスキャンディー屋の自転車を目で追っていた。

近所の庭のポンプ井戸を勝手に使って水を飲んだ。「冷てえ」「うまいな」。ついでに顔も洗った。弟の、べその跡も消えた。

戻ると家の前に母親が立っていた。「はやくおいで。暑いから」。笑顔が眩しかった。「アイスがあるよ」。弟が駆け出した。後ろを振り向いて、にっこり笑った。うれしそう顔だ。五円のアイスキャンディーが二本、皿に残っていた。大きな柿の木を渡る風が涼しい。兄弟はキャンディーを口に入れた。

時間がゆっくり流れている昭和三十年代初めの夏のことである。その頃クーラーはまだなかった。

■1948年山梨県生まれ 第13回歴史文学賞 第8回中村皇湖賞受賞「白田の人」(河出書房新社)が5月文庫本化 7月に「小西行長」(河出文庫)最新著「一葉の雲」(河出書房新社)を刊行

風情の夏はいらんかね

古屋久昭

「快適」といえば、それはクーラーにこしたことはない。蒸し暑くてどうにもならないときなど、クーラーにかかれば、高原にでも行ったような涼しさである。湿気も取り除いてくれるし、扇風機のように、紙がとんだり髪の毛が乱れたりといった、やぶせったさがないのが何よりいい。

結婚してしばらく甲府の県営アパートに住んでいた。六畳二間しかない、それでも標準的なアパートで、安月給取りにはお似合いといったところであった。

アパートの木々の緑が辺りに匂い始め、やがて梅雨も中頃になると、じわじわといやな夏の出番がくる。それ、蚊帳だ、団扇だ、扇風機だ、と夏の小道具たちの活躍どきとなる。

それでも首や腕、背中には汗がたらたらと流れる。ランニングにステテコといういでたちで、「おーい、ビールだ」とわめく。二、三歳になった寝顔の娘たちを見れば、額につぶつぶの汗、妻にも目をやれば、こまやかな汗と薄着ならではの刺激がちょっぴり。

そんな夏を四、五年続けて甲府を去った。妻を連れて御坂の私の実家へもどったのである。そのために家を増築しておき、そしてそこにはクーラーもつけておいた。

人によっては、クーラーはきれい、苦手、という人もおられるようだが、私はきれいではない。しかし贅沢とでもいうべきか、クーラーの無表情、無機質のところが気に食わない。クーラーでは夏のあの風情、情緒は生まれてこない。「そんなの暑い夏にはいらぬの」「便利、快適性が一番よ」。クーラー崇拝者、絶対者には所詮通じない話である。

蚊帳の中国扇しきりに動きけり 杉田久女

帯の上の乳にこぼはりて扇きす 飯田蛇笥

クーラーでは、こういう風物、風情には出会えない。文字どおり、風があってこそ、風物、風情、風流、風韻である。小津安二郎、小栗康平の映画も、夏の場面では必ず団扇を使いたくなるはずである。クーラーではいかに風情が出せようか。

ああ、蒸し暑い夏。されど、風情の夏はいらんかね。

■1943年御坂町生まれ 日本現代詩人会員 日本現代詩歌文学館評議員 詩集に「料理者」「椅子の眼」「落日探集」 童謡集に「安らしく花らしく」 そのほかエッセイ集「日々のおこぼれ言葉の機軸」など

クーラーが欲しい

岩崎正吾

この季節になると、決まってクーラーが欲しくなる。願わくば、クーラー付きの仕事場、大きな机に資料が全部収納できる棚があり、息抜きに寝ころぶことの出来るベッド、気分転換用の風呂など備わったところがいい。つまり書庫付きモートルのような部屋が欲しい。そう思いながら、とうとう10年が過ぎてしまった。

イギリスにニコラス・ブレイクというミステリ作家がいる。もう故人だが、この人の本業は詩人であり、大学の詩学の教授だった。ブレイクがミステリに手を染めたのは、家の屋根の修理代をかせごうとしたからだそうだ。わたしも真似をしてミステリを9冊も書いたが、仕事場の土台も出来なかった。

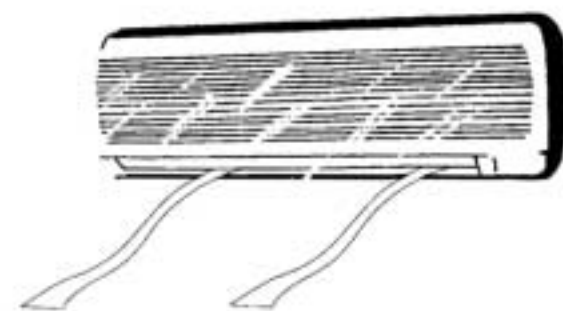
昨年の夏の終わり、来年こそはクーラーをと思い、初めての時代小説を書きはじめた。武田家滅亡を背景に、佐久からやってきた馬飼いの若者たちの活躍を描くものである。若者の中には16歳の真田幸村もいて、立川文庫の真田十勇士を下書きにしている。武田騎馬隊のルーツは、大陸から渡来してきた騎馬民族だという自説も踏まえている。うん、この小説は当たる。きっとクーラーが20台くらい買えるに違いないと、意気込んで仕事にかかった。

年内には書き上がると思っていた。わたしは二つの仕事をしているから、小説を書いている間はもう一つの出版業は完全休業状態になる。出版の仕事をやめてしまうと目ゼニが入らなくなるから、借金で年内の金策をすませている。

ところが、年末になっても終わらない。予定の枚数になっても、新府城が落城しないのである。年が明けたら、約束した出版の仕事を開始しなければならない。1月、2月、3月と、気が狂いそうな日々が続いた。

3月末になって、やっと700枚の小説が終わった。付き合いのある出版社に送って、返事待ちの日々である。今は乾いた雑巾のように、絞っても何も出ない状態である。誤字、脱字がたっぷりあるだろうが、原稿を見直す気にもならない。心も体も、最悪の状態にある。日毎に暑くなるが、今年の夏にクーラーは間に合わないのではない。せめて20世紀のうちに欲しいものである。

■1944年甲府市生まれ 小説家 長編歴史ミステリー「異説本能寺・信長死すべし」が講談社文庫として再刊 新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ「武田信玄はどこから来たかー武田騎馬隊の謎を追う」(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ



真夏に洞窟はいかが?

佐藤眞佐美

1994年6月27日、長野県松本市の民家から、異臭と白い煙のようなものが発生。いっときその家の主人が、猛毒製造犯人と疑われる。これがサリンによる無差別殺人事件計画の序曲だった。

95年1月17日に阪神大震災が起これ、その復旧作業もまだ手に付かない3月20日、新宿の地下鉄車両にサリンがばらまかれ、日本中を恐怖におとし入れた。防毒マスクやカナリヤの入った鳥籠をぶらさげて捜査する警官の姿が、連日テレビに写し出された。犯行はカルト集団オウム真理教の仕業と断定された。

上九一色村のサティアンで、サリン製造の大規模な設備が発見された。使用されたのはごく一部で、まだどこかに大量に隠されている可能性がある。隠匿には一年中温度差のない洞窟などが最適だとか。実はサティアンの近くに、天然のクーラーを備えた巨大な洞窟がある。

というわけで、文化財(溶岩洞窟)保護指導員であるぼくの出番となる。5月12日、その日頃は富士吉田警察署の課長と若い警官3人の計5人で樹海へ向かった。課長の携帯電話が鳴りっぱなしで、品川ナンバーの〇〇がどうしたとか、どこどこを封鎖せよ、などとひっきりなしに無線が入る。

目的の穴までは一時間半ほど歩く。件の穴は3メートルあまりをザイルで降り、それから延長440メートルを25度くらいの傾斜で、ずんずんと地下へ下って行く。地表から最奥までの深さは、垂直にして約130メートル。いざ入洞する段になって、若い3警官が顔面を引きつらせ尻込みした。結局課長とぼくのみ、カナリヤも防毒マスクもなしに入った。サリンはなかった。

そのあたりはタラノメの宝庫で、洞窟までの山道の両側に、ちょうど食いごろの物が、どうぞ探ってくださいとばかりに、おいでおいでをしている。若い警官は興味ないようだったが、なぜか課長は、ちゃんとしビニールの袋を用意して、

「今晚は、これで一杯やりませんか」

帰り道はもっぱら山菜摘み。麻原彰晃こと松本智津夫が逮捕されたのはその4日後、5月16日(金)であった。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会 日本洞窟学会会員 著書に「怪奇!大東京妖怪ゾーン」(ポプラ社)「交ちゃんのはるかな知床」(北海道新聞社)近著に「シレットのシルバー」(草葉社)「山梨の童話」(リブリオ出版)など

原点のある地域づくりを
夢を紡ぐ「シルクの里・豊富」
ルーツを訪ねてタイ・ネパールへも

ゲスト

なか だて さなえ
中楯早苗さん
社国際婦人教育振興会
山梨支部会長

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

シルクに託して
女性の知恵を活かしたい

早野 先生にはじめてお目にかかりましたのは、豊富村の「交流センター」においてでした。シルクは豊富村の伝統産業ですが、そのふるさとの遺産を新しい時代の価値として見直し、製品化しようとしているご努力に打たれました。そして先生はそのリーダーでいらっしゃる。

ます。
中楯 御社の建設で立派な「交流センター」が完成しました。豊富村にまたひとつ、地域の誇りと、将来へ向けての拠点ができました。ありがとうございます。「シルクの里」という名のもとに、伝統の養蚕業を現代にふさわしいものとしてよみがえらせたいというのが私たちの願いです。そのことをとおして、豊富村の素晴らしさを全国に知らせること

ができたならと、抱負をもっています。
早野 手から手への伝承ですから、これは地道な活動ですね。

中楯 女性たちが立ち上がり、グループをつくり、もう8年も技術研修に励んでいます。村を挙げての推進でして、染色や機織りの施設も充実してきました。東京の専門家に技術指導を受け、いまでは精度の高い技術も習得できるようになりました。

早野 これからは、いよいよ商品化、ということになりますね。

中楯 洋服の生地を織る技術までは達成しつつあるのですが、洋服の生地ということになりますと、ずいぶんお高いものになってしまいます。

そこで機織りのマフラーを中心に、草木染めのハンカチなどの商品開発を工夫しているところです。手頃な値段で、大勢の方に手に取っていただきたい、豊富村のことをもっと知っていただきたいという、交流の意味も込めての発想です。

早野 この活動が、女性の社会参加や、男女共生という意識を高めることにもつながって、これからの望ましい地域のあり方をイメージさせてくれていると、私はたいへん注目しています。



早野 潔

■中楯 早苗

豊富村生まれ 山梨師範学校卒
社国際婦人教育振興会 山梨支部会長
豊富村文化協会会長
県立博物館基本構想検討委員
県立美術館協議会委員
江戸千家茶道教授

「人を育てる」地域活動
学び合い、輪をひろげて

早野 先生は社会教育や、婦人教育に長らく携われ、貢献されてきました。「地域に足をおいた活動」ということもよくおっしゃっています。活動のきっかけというのは何だったのでしょうか。

中楯 私は豊富村で生まれ、育ち、学校の教師をしていました。教育者としての自負もありました。ところが、45歳になりましたときに、やはり教師であった主人の管理職昇任にともない、辞職を余儀なくされました。そうしたことが慣例の時代でした。

それを機に、社会教育に携わることになりました。しかしこのことが、本当の教育というものに目覚めさせてくれる契機となりました。本音と建前、ということも知りました。

教師という立場のときには、子供をなかにいた地域とのコミュニケーションですから、建前が生じます。村のことを何でも知っているつもりでしたが、見えていなかったもの、聞き取れなかったものがたいそうありました。

早野 尊敬されるべき肩書きも、テキストもない活動が、それ以後はじまって



中楯 早苗 さん

いくわけですね。ご苦労がおりだったと思います。

中楯 人生の本物とは何かを考えるようになりました。そして自分は何もできない村の一人だということで、地域の方に学び、婦人会などの集まりに参加し、本音の付き合いをさせていただくようになりました。学校教育にしても、社会教育にしても、教育の原点は自分が生れたところを大切にすることであり、仲間づくりにある、そう思いました。

早野 人を育てる教育ですね。家庭においても、学校においても、社会においても、今もっとも問われていることは人づくりでしょうね。

中楯 たくさんの先駆者とも出会い、偉い言葉を授けていただき、こころの財産にしています。ある方は「社会教育は相手に花を持たせて実を獲りなさい」と

おっしゃいました。自分が最初に花を持ってしまうと、成功はしない、じっと実りを待つところが大事だと教えていただきました。

地域からの国際化を提唱
山梨でも各地でセミナー

早野 近年は、社国際婦人教育振興会山梨支部会長としてもご活躍でいらっしゃいます。どんな活動をされているのですか。

中楯 この会は、婦人の国際的視野をひろめ婦人教育に寄与することを目指し、婦人教育に関する調査研究や、研修会、講演会の開催とか、婦人指導者の海外派遣等を行っています。全国で会員がおよそ900人、山梨でも60人の会員がいます。

早野 国際婦人教育振興会は、ほぼ



世界の各国と交流をしているとうかがっていますが、先生もずいぶんとお出かけになっていますね。

中橋 アメリカはもちろんですが、ソビエト、西ヨーロッパ各国、中国、ネパールや、タイ、トルコへも視察に行っております。

早野 いま、世界中で、女性の活動が盛んですよ。北京で開かれた国連世界女性会議には各国から7万人が集まり、女性の問題を話し合いましたよね。新しい時代の到来を感じました。

中橋 日本でも8千人が参加し、国際婦人教育振興会も40人ほどの派遣団を出しました。

早野 先生がもっとも関心を寄せていらっしゃる課題とは何でしょう。

中橋 女性が国の開発にどのような関わりをもっているのかとか、政策決定の場にどのくらい参加しているのかとか、また、国によってさまざまな制度がありますが、制度と女性のあり方、それから識字率や教育、労働条件、福祉についても関心をもって学習しています。

早野 この山梨でも、アジアの発展途上国の指導者を招待してのセミナーなどが活発に開催されていますね。ホームステイも行われています。

中橋 「やまなし女性国際セミナー」は、県教育委員会の委託を受けて14年にもなります。その中でアジアの女性たちをお迎えして国際セミナーを開いた年もあります。また年一度は町村にお邪魔して、町村の女性や国際交流団体の方たちと、地域在住の外国人とで話し合ったり交流会を開いております。山梨でも在住外国人の割合が増加しています。生活習慣も違いますし、理解し合う機会も少ないのですが、これからは

一人ひとりがよきパートナーであることが求められます。「地域からの国際化」とおして、女性の視点からさまざまな問題について語り合うことは、自分自身を映し出す鏡にもなります。山梨の女性も、いま、変わりつつありますよ。

■ 黒板ひとつの教室で学ぶ 発展途上国の子供と女性

早野 いろいろな国を訪問されて、日本人として、また、女性として、どんな

印象や感想をおもちですか。モノはあふれていても「幸福感」の希薄な今日の日本ですが、人間の豊かさ、幸福とは何なのでしょう。

中橋 やはり、子供たちに目が向きますね。ネパールの学校へ行ったときには驚きました。黒板がひとつ、長い机がひとつという教室で勉強していました。教室の窓にはガラスも入っていません。ノートも鉛筆もありません。雨の日や風の吹く日はどうするのか気

になりました。しかし、花束を持って迎えてくれた子供たちは、何という目の輝きでしょうか、そして伸びやかです。思わず日本の今日の子供たちと比較してしまいました。

早野 正しくは「ネパール王国」というのでしょうか。ヒマラヤ山脈が立ち上がり、エベレストがあり、北はチベット、南はインドに隣接した内陸国ですね。人口は2千万ほどですか。ヒンズー教の国ですね。

中橋 発展途上国ですが、村落部では識字率は男性52パーセント、女性22パーセントです。教育の普及を示す数字ですが、あわせて、これはそのまま男女差を語るものでもあります。ヒンズー教のもと、女性は男性よりも低いものとみなされています。たとえば、女の子は学校へ入っても、すぐに退学してしまいます。家事のための労働力として使われるため、ネパールでは5歳にしてすでに立派な主婦であるともいわれています。

さらに、結婚しても男の子が生まれるまでは家庭内での地位は低く、過重労働、栄養不足、重なる出産などで、女性の平均寿命は男性55歳に対して53歳と格差があります。

早野 米、小麦、トウモロコシが特産の農業国ですよ。子供は1家族に5、6人はいるのでしょうか。家族計画は、女性の社会的、経済的地位改善のためにもこれからは必要なのでしょうね。

中橋 女性たちは朝の水汲みからはじまり、草取り、炊事洗濯、子育てと、一日中働きます。男性の労働時間が8時間に対して、女性は17時間も働きます。それでいて、報われることは少ないですね。



シルクふれんどりい

早野 美しい自然の国、というイメージがありますが、近年のネパールは環境問題も深刻のようですね。人口増加で、家を作るために木を伐り、森林も少なくなっていると聞きます。生態系が変わり動物も減少し、洪水も起こり、災害をもたらしているともいいます。こうした状況は、さらに女性と子供たちを深刻な立場に追いやりますね。

タイに学ぶシルクのルーツ ふるさと創造の「原点」とは

中橋 ネパールでは100万円もあると、学校がひとつできます。私たちに何かできることはないかと、支援活動もはじめています。ネパールの子供たちと山梨の子供たちとの絵画の交換や、使用済みのテレフォンカードを集め、その収益金を送ったりもしています。

しかし、学ぶことも多いのです。子供たちのあの明るさ、女性たちの家族を思うあのやさしさ、また、お年寄りを大切にすることを、どう語ったらよいでしょうか。日本が先進国となった過程で失ったものについて、いろいろと考えさせられることも確かです。

早野 シルクの盛んなタイには、「シルクの里・豊富」との共通性もあり、こ

に関心を寄せられているとうかがっていますが。

中橋 タイでは、王室に工房があり、そこでは古来からの伝統的な国の織物をそのまま今日に伝えています。近代化されていく織物生産のなかであって、ここではかたくなに伝統が守られています。

早野 生産を向上し、商品化されていく織物とは別に、国の伝統を王室が保護しているわけですね。

中橋 タイには、織物の原点があります。創意や工夫、人間の英知のはじまりがあります。なにごとによらず進歩という名のもとに、技術革新と消費を求めてきた時代のなかで、ここにだけは原点が存在します。そこに私はここを打たれ、価値を見出すわけです。やはりいつも、先に進んだら元を見なければ駄目だと思うのです。

早野 先生のイメージされる「ふるさと」の発見も、「地域」の創造も、こうした「原点」を重ねるところからかたちづくられていくのでしょうか。「シルクの里・豊富」へ寄せる先生の思いも理解できる気がいたします。

中橋 西陣織が代表する技術は、世の中にもういくらでもあります。コンピュ

ータが、さらに技術を更新させもしていくでしょう。しかし、豊富村でしたいことは、豊富村でなければ、という地域性と、村の人たちのこころと手による名産品づくりです。そのためには豊富村の「原点」を知り、尊ばなければなりません。

早野 山梨でも博物館構想が進められていますよね。地域に目覚めようという気運が盛んです。ここにも、わが山梨の「原点」を探ろうというまなざしがあります。

中橋 山梨の博物館は待望してやまないものですが、私の望む構想は、センターというべきものがひとつあり、それを核に、山梨県下の各地と結んで、各地の原点が、ルーツが明らかになっていくようなものであって欲しい、そう願っています。

早野 地域社会に目を向けた発想ですね。そのためにも、女性の意識の向上と、役割が求められ、期待されますね。

中橋 若い人たちは言うのです。「地域のために生きているのではない。自分のために生きているのだ」と、また、地域を考えるのは古い、とも言います。しかし、地域は、人間を育てる母なんですよね。

[構成：三神弘]

ネパールを訪ねて



物を運搬する女性たち



学校での授業風景（日本の子ども達からの贈物）



ネパールの女性団体長と通信情報大臣



世界女性会議に出席したタイ女性

混乱するアジア情勢と日本

円安がアジアの金融危機を増幅
再び強い円の日本にサッカーよりも円安に
足元がガタつく日本

サッカーの第16回ワールドカップ(W杯)フランス大会が6月10日に開幕した。今世紀最後となるこの大会には、世界32カ国・地域のチームが参加している。開幕直前までエールフランス操縦士労働組合のストが続いたり、入場券不足からツアーの中止が相次いだり、観戦できる保証もないままに、フランスに行った熱心なサポーターもいた。また、テレビ観戦をあてこんで、ビザ宅配各社が試合時間に併せて営業時間を延長するなど、日本中が「ワールドカップ」でもちきりである。

アジアからは日本や韓国が出場している。ワールドカップへの出場はそれぞれの国民に勇気を与え、国家的にも名望なことであろうが、日本と韓国は深刻な経済・金融危機に立たされており、「ワールドカップ」に酔いしれない状況にある。

円安が進み6月12日には東京外為市場で、1ドルが144円台に下落すると同時に、アジア各国の通貨も「つれ安」となった。それにしても95年4月に、1ドル

80円を突破した強い円は、わずか3年後にはドルに対する価値が4割以上も損なわれたのである。

たしかに、今回の円安は輸出競争力を高め、国内の消費低迷に苦しむ企業の輸出ドライブをかければ、貿易黒字は拡大するだろう。しかし、逆に強い円の日本に輸出して外貨を稼いできた、アジアの国々との間で貿易摩擦戦争が生じてくることもある。この事態だけはなんとしても避けなければならない。

経済不況と金融不安に
直面するアジア諸国

日本はアジアの経済回復の牽引車ではなく、足を引っ張っており、円安がそのまま進むとアジア経済全体の屋台骨が揺るぐことになるだろう。それだけでなく、アジアの国々では経済危機克服のために、国民に痛みを強めているのが実情である。

隣の韓国では政府がIMF(国際通貨基金)など国際社会からの支援を受けるために、経営上の理由で労働者を解雇できるようにした、「整理解雇制」の嵐が吹き荒れ、失業者の数は4月の段階で143万人を記録、半年前の3倍に膨ら

んでいる。駅の地下道には職を失ったホームレスで埋まっている。

韓国とともに日本と緊密な関係にあるのがインドネシアである。政府の補助金削減が騒乱の引き金となり、32年ぶりに政権交代が行われ、スハルト大統領が辞任を余儀なくされた。

ところで、タイやシンガポール、マレーシア、香港、韓国など、金融不安に陥っている国々の事態に一番当惑しているのは、日本の大手銀行や証券会社、商社である。バブル経済がはじけた91年以降、これらはアジア各国へ競って融資を行ってきた。邦銀のアジア各国への融資額は、5月14日の衆議院経済対策緊急特別委員会で松永蔵相が明らかにしたのは「2,714億ドル、33兆円」であった。

また、日本の大手商社6社がタイ、マレーシア、インドネシアなどの東南アジア4カ国と、韓国向け投融資・債務保証残高が今年3月末で1兆5,500億円に達している。

これらの国々の台所はどこも火の車の状況にあり、不良債権問題も台頭してきている。日本からの融資が政治・経済混乱によって、返済不可能となる最悪の事態も予想される。

宮塚 利雄

みや つか とし お

山梨学院大学経営情報学部助教授

日本がはたすべき役割

今回の急激な円安を受けてアジアでは、通貨・金融危機からの回復が遅れるばかりでなく、事態がこのまま進行すれば「日本発の恐慌」にも発展しかねない、との懸念がひろがってくる。

「日本は円安を意図的に放置している」との反発の声が、周辺の国から聞こえるようになり、日本の内需と輸入の拡大を求める声が一段と高まっている。

6月12日付の香港の英字紙「ホンコン・スタンダード」は、「円安の進行がある日本陰謀説」と題する社説を掲載し、その中で「中国の東南アジア接近をくい止め、日本のアジア支配を継続させるために、日本と米国が仕組んだもの」と手厳しく批判している。

日本が意図的に円安を放置しているという見方は「ストレーツ・タイムズ」(シンガポール)も同じで、12日付の社説で「アジアが通貨・金融危機から回復するのに必要な輸出拡大が、円安で困難になった」と警戒感を強めている。

同じく日本以上に金融・通貨不安に直面している韓国の「朝鮮日報」は、13日付の朝刊早版で、円安の記事を一面



12日、日本の東京・外為市場で円貨が暴落。電光板に1ドル当り円貨の換率が144.65円を示している中で、外為取引人たちが虚脱した表情を見せている。

のトップに掲載し、「韓国では円安が対日輸出に影響するだけでなく、電子産業や重工業の輸出競争力を直撃する」と、韓国経済にとっては致命的な打撃になるだけに、「日本の無能」が今回の急激な円安を招いたとして、日本政府の「姿なき対応」に不快感を示した。

今回の円安は、日本への輸出を頼みとしているアジア諸国の、通貨不安の危険性を助長するだけである。日本にいま求められているのは、円を強くし、ア

ジア諸国で決済通貨として使えるようにすることである。そのためには「景気の落ち込み」と「不良債権処理」に対する確固たる対応と、輸入と国内消費の拡大に努力しなければならない。経済対策の具体像を示すことによって、アジア各国からの「日本が円安を意図的に放置」という誤りを払拭し、岡倉天心が説いた「アジアは一つ」のよき構成員として、アジア各国との共存・共栄ができるのである。



「なかとみ和紙の里」
なかとみ現代工芸美術館
施工/株式会社早野組

和紙

地域に根ざした生活文化の拠点、文庫の
場を目指し、現代建築の粋を結集した
「なかとみ和紙の里」が完成しました。

「文化の世紀」ともいわれる21世紀
に向け、伝統産業が町の
活性化のチカラと
なればよい……

伝統にチカラ。

ISO9001 認証取得



HAYANO

株式会社 早野組

本社 ■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL0552-35-1111(代) FAX0552-35-1109
東京支店 ■〒103-0835 東京都八王子市千人町2-5-24
TEL0426-67-8800 FAX0426-67-9497

中部支店 ■長野県飯田市東中平2821-1 TEL0265(22)3969 FAX 52-2171
新潟営業所 ■新潟県新潟市西新保4-41-407 TEL03(3376)2897 FAX 3375-7124
静岡営業所 ■静岡県静岡市大宮2丁目4-7 TEL054(246)2503 FAX 246-2510
岐阜営業所 ■岐阜県土岐市東陽の本町1丁目32 TEL0572(55)2834 FAX 55-0817
計数営業所 ■長野県駒ヶ根市赤穂3469-1 TEL0265(83)0360 FAX 81-5468

企業ウォッチング

セントラルコーポレーション

代表取締役

武内 佳久 氏

たけうち よしひさ

●セントラルコーポレーションデータ●

平成元年(1989)4月11日設立。コンピュータのハードディスク周辺機器の企画
開発と輸出が主な事業。IBM、TDK、富士電機などトップメーカーと取引。現在地
に新社屋が完成した。資本金1,000万円。社員15名。北米にも支店を持つ。
〒400-0008 山梨県甲府市緑が丘一丁目2-20セントラルビル1F
TEL 0552(54)1300



あふれる情報、混沌とした社会、押し寄せるデジタル化の
波。仕事に生きがいを見出す余裕もなく、日常の喧騒に疲
れ果て流されていく日々—そんな暗いニュースの多い中、目
の覚める様な人物に出会った。

大都会から一歩引いた山梨の地で、まさに最先端をいく企
業。その存在は、企業戦士に新たな夢と希望を与えてくれた。

インターネットでより身近になった海外市場

創業からわずか10年。市場の9割は海外、年間売上40—
50億円、常に法人ランキングに名をのせる。取引先も
IBM、富士電機、TDKなど、いずれもトップメーカーばかり。
ひととき、その存在がひかるセントラルコーポレーション。

「わたしたちの仕事は、コンピューターの内部記憶装置の
部品の一つひとつを対象にした企画開発と販売業務。一般
の人には少しわかりにくい専門的な分野ですよ。でも、皆さん
がお使いになっているコンピューターの記憶部分に使用され
る部品と言えれば少し理解していただけるのではないで
しょうか。」



見せていただいたのは、コン
ピューターのメモリ部分、その中
を開き、さらに爪楊枝の先ほど
に繊細で小さな部品の数々。

かなり専門的な知識と開発
ノウハウが必要な製品ばかり。
「わたしたちは企画開発し、そ
れを県内企業の方に造ってい
ただきます。技術力のレベル
に地方も都会もありません。

任せられると判断した会社なら、設備投資もいたします」。

将来はリゾート感覚で、社員がリラックスできる職場を!

ビジネスエリアは世界各国、商品を売り込む為に社長自ら
も海外へ行くことが多いと言う。本社社員は全部で15名、う
ち4名が外国の方たち。しかも、トップクラスの教育を受けて
来た人ばかりだそう。北米に支店をもち横浜、香港やマレ
ーシアに配送拠点を置いて迅速な対応も万全。

山梨に拠点を置いて、何か不自由なことはありませんか
の問いかけに「情報交換や顧客管理は社員が各自モバイル
を携帯していますので、どこにいても仕事ができる状態です。外
で緊張感をもった厳しい仕事をしているので、社に戻った
らリラックスできる環境をつくり、よりよい仕事をしてもらいた
い。いずれは、リゾート地に社屋を移転することも考えてま
す。いろんな国の方を相手に仕事をしますから、時差の関
係で、フレックスタイム制も導入しています」。社長の言葉の
一つひとつに前向きな姿勢が伺われる。さらに、こう付け加
えてくれた。

「山梨だからってできないことはないですよ。これだけ情
報網と通信手段が発達してるんですから、それを上手に利
用すれば、山梨を発進にしてどんどん海外へ進出できる。わ
たしはそれを実行しているだけです」。その笑顔は、とても
穏やかで余裕に満ちていた。

趣味は、トランペット演奏でもっぱらクラシック専門。家族
揃って演奏することも珍しくないそう。家族をこよなく愛し、
仕事も充実。少数精鋭の理想的な会社を目指す敏腕社長の
の、時代に流されず、流れをつくるフロンティアスピリットに共
感を覚えた。

甲府まちなかの 音楽祭実行委員会

まちなかから発信する
新しいイベントで
“元気が大きな元気を呼ぶ”



今年のオーディション風景

うれしいエピソードに励まされ

「甲府まちなかの音楽祭」は、昨年からは始まった新しい夏のイベントだ。甲府市の生涯学習課が中心となり、市役所の駐車場で行う音楽祭で、去年は5千人の人出で賑わった。「目的の一つは、企画・運営をすべて市の職員がボランティアで行い、イベントのノウハウをみんなで学ぼうということ。もう一つは、中心部の空洞化が叫ばれる今、このイベントを通してまちなかの活性化を図ろうということです」と担当の瀧野さん。ステージはプロとアマチュアの二部形式。スタッフらは真夏の暑さにもめげず、手弁当を持参して大活躍した。大変だったことは？ とスタッフに尋ねると「私た

ちは裏方なので苦労話は当たり前。大変とかいうのは二の次でして、それより来てくれたお客さんや出演者の皆さん、関係者の方々に喜んでいただけたのが一番です」という小気味いい返事が戻ってきた。そんな話の中で「息子が夜でかけて何をしているか心配していた



が、ステージで演奏する息子の姿を初めてみたお母さんが、涙ぐんでお礼を述べてくれた」という心暖まるエピソードもあった。

今年はますますパワーアップ

好評だった昨年に弾みをつけて今年はさらに盛り上げたい、とスタッフも意欲満々だ。TVやラジオで出場するアマチュアバンドを公募したら、何と31グループも集まったという。先日は、その公開オーディションが行われた。音楽ステージ以外にも、朝顔市や絵画コンテスト、フリーマーケット、野菜の即売会に餅つきや出店など、ざっと20ブース以上を予定しているという。多彩な内容で楽しい「甲府まちなかの音楽祭」、今年の8月8日にはどうかまた、素敵なエピソードが生まれますように。

【取材：原田陽子】

◆甲府まちなかの音楽祭実行委員会◆

昨年の第1回に合わせて発足。「夢のあるまちづくり」をめざして若者たちに発表の場を提供している。イベントの企画・運営はすべてボランティア。市の職員で構成するスタッフは総勢20名。2月の立ち上げから今年もいよいよ本格始動に。協、サービス精神旺盛の人ばかりだ。

連絡先 甲府市教育委員会 教育部 生涯学習課
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1-18-1
TEL 0552 (37) 1161

21世紀の街づくりへの胎動 Part2

青木茂樹

山梨学院大学商学部専任講師



マイカル・明石

●新業態革命

従来、小売業は、例えば靴屋、靴屋……というように取り扱い品目の特性によって区分されていました。

つまり、業種別小売業が中心でした。しかし、1960年以降、スーパーマーケットが成長し、さらには食料品だけでなく、雑貨や衣料品をも扱うようなGMS (General Merchandise Store) が出現するようになり、これは「業態革命」と呼ばれました。

そして今日、これまでのスーパーマーケットやGMS、百貨店といった業態とも異なる新たな小売業が出現しております。

例えば、トイザらスのように特定の商品分野に専門特化し、奥深い品揃えと低価格販売を行う小売業態はカテゴリー・キラーと呼ばれ、これらを核としていくつかの専門店を集積させた大規模ショッピングセンターはパワーセンターと呼ばれます。甲府のトイザらスはこれに該当するでしょう。

博多では、コンピューター・スポーツ用品のカテゴリーキラーであるメガ・バンドール(ダイエー系)が核となり、ホテル、スパ&スポーツ・クラブ、アミューズ

メント施設のジョイボリス、各種専門店が入ったキャナル・シティがつくられました。

明石では、マイカル・グレイブがGMSのサティ、若者向けのテナントをそろえたビブレを中心にワナー・マイカルの映画館、スパ&スポーツ・クラブ、アミューズメント要素を含んだレストラン街をつくり、評判を呼んでいます。

新宿高島屋は、従来の百貨店では弱みとなっていた部分に、書籍の紀伊国屋、レコード・CDのHBM、雑貨の東急ハンズをいれることで魅力的な商業施設をつくりました。

これらは、すべて従来の業態を越え、さらにアミューズメント要素を強く打ち出すことで、魅力的な商業施設となったのです。

これらは「新業態革命」として捉えられるのではないのでしょうか。

●ネットワーキングによる 魅力的な商業集積が勝負の鍵

こうした動きをみてわかることは、どの企業にも強みと弱みがあり、弱みの部分を他企業に委託することによって補い、消費者の魅力度をアップする戦略が採られていることです。この戦略をアウト・ソーシングといいます。この組み合わせの基本的な発想として必要なのは、ターゲットを誰に絞っているかというコンセプトが一貫しているか否かということです。カプルの若者を対象とするのか、ファミリーを対象とするのか主婦を対象にするのかによって、当然組み合わせる施設は異なります。大規模小売業がこうした動きをみせている今日、商店街活性化は非常に困難になっているのが現状です。これらの現状と課題は次号でお話します。

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

不正改造車排除運動

甲府通運は、従来から不正改造車の使用を禁じています。しかし、全日本トラック協会が平成2年度より、全国的に不正改造車排除運動を展開してきたにもかかわらず、依然として暴走行為・過積載運行等を目的とした不正改造車が後を絶たず、道路交通の秩序を乱すとともに、自動車の排出ガスによる大気汚染、騒音等による、環境の悪化が深刻な社会問題になっています。

山梨県トラック協会は、平成10年6月1日から6月30日までの1ヶ月間を、重点期間として運動を行いました。実施事項は次の通りです。

(1) 適性な車両の運行の徹底

登録後の二次架装の防止等、不正改造防止に努め、保安基準に適合する車両の使用を徹底する。

(2) 従業員に対する指導

従業員に対して、本運動の主旨、重点目標、実施事項、不正改造事例、不正改造防止に関する留意事項等について周知指導し、不正改造防止の徹底を図る。

(3) 自主点検の実施

運動実施責任者を選任して、事業場における車両管理体制について自主点検を実施する。

(4) 不正改造車等に関する情報等の提供

不正改造車等に関する情報を陸運支局等に提供する。

山梨陸運支局整備課 TEL0552-61-0882

当社では、この運動を社内事故防止運動の一環として、積極的かつ継続的に押し進めています。

原常務が退任

平成10年5月25日付けで原常務取締役が退任され、顧問に就任いたしました。原前常務は昭和5年3月29日生まれ(現在68才)、昭和22年3月に甲府中学卒業後、同年5月に山梨労働基準局賃金課に勤務され、諏訪労働基準監督署長、甲府労働基準監督署長を歴任の後、平成元年5月に当社理事に就任いたしました。以後平成6年9月に取締役、平成8年9月に常務取締役就任と当社の安全管理業務に多大な貢献をされました。理事就任当時は安全管理面ではまだまだ未熟であった当社に厳しい指導をいただき、在任期間中一度も重大災害が発生しなかったのみならず、当社の安全管理のレベルをトップクラスに引き上げていただきました。全社員及び協力会社が原前常務の教えを守り、無事故・



無災害の実現を図ると同時に、「見る人をして品位を感じ取らせる工事現場の出現」のために努力しなければなりません。

今後とも健康には十分留意され、当社、協力会、及びグループ各社に更なるご指導をいただけますようお願いいたします。

(株) 早野組
本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL0552-35-1111

甲府通運(株)
本社：中巨摩郡昭和町流通団地3329-1 TEL0552-73-0611

トヨタビスタのCMが変わりました。

6月上旬よりビスタのTVコマーシャルが新しくなりました。例年、イベントの紹介を中心に明るく楽しい「スタこら・ビスタ」をキーワードに展開しています。好評の第2弾も近日オンエアされます。どうぞご期待下さい。

また、ニューモデル「ビスタ」「ビスタアルデオ」が7月1日より2つのボディに生まれ変わって新登場、よりワイドに快適性を追求したセダン・ワゴンの完成です。

ぜひお近くのビスタ店でご覧下さい。

お待ちしております。



トヨタビスタ山梨(株)
本社：甲府市朝霞3丁目10-21 TEL0552-32-5511

昭和町河西分譲地 全9区画造成中

トヨタホーム山梨では、現在下記内容で分譲地を造成中です。交通至便な希少物件ですので、お問い合わせは早目にどうぞ。

《物件概要》

- 所在地 / 中巨摩郡昭和町河西字大林1023-1他
- 地目 / 宅地 ●用途地域 / 第一種住居地域
- 建ぺい率 / 60% ●容積率 / 200%
- 設備 / 電気、上・下水道、プロパンガス
- その他 / 1,2年通学バスあり(御原小学校)
オギノリバーサイド店徒歩5分
昭和I.C車で10分
トヨタホーム建築条件付き
水道加入金別途

- 開発許可番号 / 甲上第2-471号(平成10年3月26日)
- 取引態様 / 売主



トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL0552-75-1234 FAX0552-75-7806

村人からソウテイさんと親しく呼ばれ

その初期には宗貞堰とまで謳われた

楯無堰に取り組んだ創始者の足跡

野村宗貞

(のむら そうてい)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

前回、徳島平左衛門を取り上げたので、今度はどうしても楯無堰の開拓者野村宗貞をも取り上げねばならない。私が用水をめぐる堰史に興味をもち、特にその開創者に惹かれるようになったのは、たまたま常習早稲地帯の「御坂町誌」や「明野村誌」を編集監修して、現地をくまなく踏査して歩いたことが強いきっかけとなった。

県下三大堰のひとつ「楯無堰」はその取水口が明野村の厚芝にある。この堰の利用地域は、取水口は明野村であっても、利用の主力は小笠原以南が中心である。宝永2年(1705)の三之蔵村明細帳をみると、「立石御堰 三十九年以前未年、野村久左衛門宗貞堰見立…」とあり、また浅尾新田区有文書を見ると、「右堰之儀は松田御領の節、寛文六年江戸表出生野村宗貞と申す者見立て相願候由、此辺之村々田方一向これなく、畑作斗りにて年々日損これあり、百姓吞水等も所々遠方より牛馬にて附け運び、難儀の村方にこれあり候。此の堰、願いの通り野村宗貞に仰せつけられ、成就のあと畑作までうおい、田方多く相成り、吞水ともに難儀相やみ申し候」と見えている。しかし、そのあとの方では「流末竜地村まで掘り通し難所多く候へども、水滞

りなく引き渡し、御入用諸色代目録下され候。然る処難堰故水分にこれなく、宗貞、堰放し差し上げ、翌年申酉兩年御代官様より水盛りこれあり、所々掘り替え流末まで滞りなく相届き、其の後宝永



楯無堰の悠久の流れ

元年申年迄は請負人度々替り候処、水滞り流末四カ村植え付け相成らず候に付、元禄十六年御吟味の上、団子新居村六郎右衛門に定請負人に仰せ付けられ、堰通り之儀世話諸事致し…」と見えているから、堰の流れは一時に完成を見たわけではないことがわかる。

また上記の資料では江戸表出生の野村宗貞が堰を見立てたとあるけれども、その生国は実際には摂州大阪の浪人野村久左衛門宗貞といい、江戸に出て甲斐に入国、宇津谷村(現双葉町内)に隠棲していたが、「山梨百科事典」によれば、その間に寛永の頃、山之神(現田富町)で工事を計画したとあるけれども、どうも判然としない。そして寛文6年(1666)楯無堰の計画に入ったというわけである。

現地を歩いてみると既地は茅ヶ岳山麓台地に分布する双葉統土壌で、年間降水量が乏しい上に、水利の梗がまことに悪く、農民たちが日常の飲用水にも事欠き苦しんでいるのを目の当たりにした野村宗貞が発奮し、地元の村役人等と相談して甲府藩主徳川綱重に水路開削を願い出たのだという。

そして許可が下りると、甲府の資産家の寄附を頼んだりして厚芝から塩川の水を引き入れ、4年間工事を続行したが、一説には宗貞の測量ミスで用水は宇津谷までしか届かず、竜地までやと水が届いたのは、延宝8年(1680)のことであったともいう。いやそんなことはない。野村宗貞の工事は完璧で竜地まで水が届き、3年後の寛文8年(1668)には



楯無堰の塩川取水口



楯無堰取水口施設



野村宗貞の墓(双葉町・法喜院)

見事に工事を完了できたと主張する人もいる。しかし上記資料のように、水盛りというのは水平を定める「水ばかり」のことであるから、明らかに測量のやり直しが行われたことは事実であろう。また「立石堰」の呼称も一般に行き渡ってよ、これは上野山の立石原を堰が通っているからで、宇津谷村などでは「ソウテイさん」と呼ばれて親しまれていても、正式名もその後「楯無堰」となってしまう。全長は四里八町(約17キロ)あり、間敷では一万二千間余、開発の総高は852石、灌漑面積は六十三町歩に及んでいる。

野村宗貞は生まれた年は明らかではないが、天和2戊辰(1682)2月9日に死亡。諡号を実山祐貞上座といい、宇津谷の法喜院に葬られた。ここで特に指摘しておきたいことは、すでに前号で紹介した徳島平左衛門との関連である。また徳坂古堰を掘った杉浦七郎右衛門との関係も考えねばならない。徳島平左衛門についてはすでに紹介しているので重複をさけるが、杉浦について瞥見すると、延宝6年(1678)11月七郎右衛門が評定所へ提出した訴訟文書というのがある。その内容を見ると企画は寛文8年(1668)に始まっており、その功績によ

って七郎右衛門は扶持米6俵、三之蔵で無年貢の新畑四反七畝を下賜されている。なお浅尾新田の宮原家文書を見ると、「此類人七郎右衛門、初め永井に住するの時、一村同意連判にて奉願上、弥普請以後は三之蔵村日之域に住す、今は子無し、元生まれた所は摂州大阪なる者と伝う」と記録している。

つまりこれらの堰工事の発端や企画性が、楯無堰・徳坂古堰・徳島堰ともに非常に似通った性格のもので、しかも野村・杉浦も大阪の人、徳島は美濃妻木家の浪人というが、一説には大阪の残党とも書かれている。発企の年代もほぼ同じである。

ただ従来の史書はこの足跡を個々バラバラのものとしてとらえ、たまたま甲斐に入国した浪士が、農民の水不足に苦しみ姿に目をとめ、慈善事業として工事を起こしたかの如く綴ったものがほとんどである。

そこで私は昭和38年「明野村誌」を編集執筆したとき、この事実の矛盾をつき、堰史の項の中に「江戸時代初期の幕政の過渡期には、地方農村の開発計画が盛んであって、仕官の道がなかった浪士達が各地に散って、自分達の力量を示し、同時に生活の糧を求める手段とした

者が多かった。」と指摘しておいた。

もちろん、その人物の努力や人柄の影響も大きいと思えるが、天下分け目の合戦のあとなど、特に大阪方の浪士が藩つぶれて生活に困り、新しい生活を求めて各地に散り、普請奉行とか検地役人、土木技術を身につけた浪人が、水盛りの技術など駆使できれば、結構新田開発などをやりたい村々から歓迎され期待される雰囲気醸成されていたのである。

ただ企業となると、角倉了以のように何方面もの自己資金が必要であったし、徳島平左衛門の場合も資金四千両余を費やして、利益を上げようと図ったが、これは政治工作に阻まれて失意のうちに江戸に去ってしまう。資金のなかった楯無堰の場合には、甲府の商人などから資金を募り、事業請負のような形で発掘が進められ、成功したなら資金を出した側にも年々ながしのかの見返りがある仕組みで、結局、寛文8年(1668)野村は事業に失敗した形となり、堰の権利を放ち宇津谷に隠棲して老後を過ごし、天和2年2月に死亡してしまうのである。

発企がいくら目を見張るように斬新であっても、事業結果は昔も今もその厳しさは少しも変わらないようである。

ボクのアート品観察日記10

日本美術院展で見つけた「名画ネコ」

山本 育夫

やまもと いくお
ミュージアム・マガジンDOME（ドーム）／美術品観察AW
（エイ・ダブルユー）／美術批評・展覧会批評誌LR（エル・アール）編集長 週刊朝日に展覧会批評連載中

天心の時代

春うららの季節に、東京国立博物館で開催された「日本美術院創立百周年記念特別展／近代日本美術の軌跡」展を観にでかけた。日本美術院は明治31年（1898年）に、岡倉天心が創設した美術団体である。では、なぜ天心が日本美術院の創設を思い立ったのかといえは、実は、この年3月に、天心はそれまで校長を務めていた東京美術学校（後の東京芸術大学）を「退職させられ」たからであった。天心を「誹謗する怪文書」が出回ったのである。天心を慕う教授陣17名が、天心を追って退職し、その年の7月に、東京谷中に日本美術院を創設した。

天心は東京美術学校時代も日本画教育を中心に行っており、日本美術院の中心的メンバーである横山大観、下村観山、菱田春草などを育てていた。東京美術学校はその後、海外で印象派を学んできた黒田清輝らに主導されるようになり、油絵がもてはやされるようになる。天心から清輝へ、日本の美術はこの時代に大きな転換を強いられたのであるが、しかし、それから百年たった20世紀末、さて、本当にこの選択は正

しかったのか、という問いの声が挙がっているのである。「天心」が投げかけた「問い」の答は、まだ見つかっていない。だとすれば、天心はまだ、ボクたちとともに生きているのである。

名画ネコ

と、まあ、そんなことを考えながら会場を巡ったのだが、しかし、次々と大作を見ているうちに何匹もの「名画ネコ」を発見してしまい、「それどころでは」なくなってしまった（笑）。そこで今回は「日本美術院のメンバーが描いたネコ」を、誌面の許すかぎり紹介してみよう。

まずは橋本雅邦「竹林雀猫図」（明治29年／1896年）。よく見ると竹の枝には四羽の雀が描かれている。その雀たちの呼びかけにこたえるかのように穏やかに首をもたげる白い猫。耳をいささかそばだててはいるものの、そのやさしげな表情、肉球（猫の足の裏についている）を見せている足（つまり、爪を立てていないのだから戦う気配はないわけだ）などからも、雀とのやり取りは微笑ましいものに思えるのだ。

しばらく、絵の前にたたずんで、のんびりとしたひとときを堪能したいと思わ

せる絵だ。つづいて、寺崎広業の「秋園」。明治32年、1899年の作だ。

少女が庭先の藤のテーブルにもたれて編み物をしている。萩や白菊が見えるから季節は秋。それほど寒くもない昼下がりの風情。足元の白猫も気持ちよさそうに目を閉じてうずくまっている。もうこの国が捨ててしまった緩やかな時間の流れがここにはある。リボン、編み物、棕櫚の木、藤のテーブル、猫。モダンな絵柄は天心のアドバイスを受けた（？）賜物とか。それにしても、少女がはいてる大きな下駄の愛らしさといったら！

大急ぎでもう2匹

富取風堂「鶏」（大正9年／1920年）。吊るされた鶏、カゴの中の鶏、死んだ鶏。その鶏に、今まさに食いつこうとしている黒猫。弾力なリアルな主題を日本画で描ききろうとする苦心のほどがしのばれる作だ。

もう一点も、獲物にありついた猫だが、こちらはどこかメルヘンの世界だ。小茂田青樹「春の夜」（昭和5年／1930年）。雀の羽根をくわえて今まさに歩み去ろうとする白猫と、それを見下ろして



橋本雅邦「竹林雀猫図」
（明治29年／1896年）



いる鳥。夜散る花の濃密な風情が、一瞬の光景を永遠の謎めいた世界へと誘うのだ。紙数が尽きた。



寺崎広業「秋園」
（明治32年／1899年）



富取風堂「鶏」
（大正9年／1920年）



小茂田青樹「春の夜」
（昭和5年／1930年）



「光る君」の話を知っていますか



あの瀬戸内寂庵氏がついに『源氏物語』の現代語訳を完成させた。今からざっと1000年以上も前に書かれたその原本は「桐壺」の巻から「夢浮橋」まで、全部で54帖。現在使われている400字詰め原稿用紙に換算すれば、約4000枚にも上り、パール・バックの『大地』に匹敵するという。登場人物は430人。そう聞いただけでも、活字嫌いや古典アレルギーの人は敬遠してしまうかもしれないが、今回講談社から出版されたそれは、大きな文字で印刷してあるうえ、自らも波乱の人生を歩んだ彼女の、男女の哀歓を心得た絶妙な訳文が読みやすいと評判だから、これを機会にぜひ一度手にとってみてほしい。意外にすんなりと物語の世界へ入ってゆけるのでは、と思う。

「のほほん」時代を覗きみる

「光る君」という名の通り、まばゆいばかりに美しい光源氏。彼は、その優れた美貌と地位、恵まれた才能をもって、周囲の女人たちと数々の恋愛劇を繰り広げてゆく。話の中には、今でいう援助交際や不倫、それに強姦とも見まがうような話がひんぱんに出てくる。自分は何をしても許されるという特別な地位をふりがざして口説く場面など、何て身勝手な、と最初、私は妙な憤りを感じたものだ。(じつはこの本、皇室批判につながるとして戦時中は読むとはいけないことになっていた)現在では離婚は法

律上、認められず、離婚すれば、すぐさまバツイチというレッテルを張られてしまうのに、自分だけのほほんと好き放題は許せない!! という思いが込み上げた。ところが、読み進むうちに、どうもそうした情事には事情があるらしい、ということがわかってきた。まず、平安時代はまだ、一夫一婦制ではなかったのだ。当時、部には家格は高くても、肉親を亡くす等の不幸に見舞われ、扶助や庇護を受けられずに困窮していた女たちがいた。彼の行動には、そうした女たちを助けてあげたという一面もある。また、仏教が根差し、因縁や業といった思想に敏感な時代であった。源氏も宿命の恐ろしさにおののき、ついには出家を決意するのである。私の憤りは、次第に理解へと変わっていった。



本当の幸せて何だろね

物語の中には、光源氏から相手にされなくなった悲しみを、生霊や死霊となること

で請らす女性が出てくる。また、自分の不義に悶々と悩んだ末、出家する者もいる。気位が高く損をする女もいれば、女という枠を超えて、人として大きな信頼を得、生涯尽くす女性もいる。

まさに女人たちのカタログだ。私たち読者は、この超大作のお陰で女という生き物を(『源氏物語』には男性もでてくるので、男という生き物をも)総体的に客観的に見つめることができる。でもなぜか私には、彼女ら(彼女)を単に羨はかたとか、生憎だとか、人情味がないヤツだとかいって、簡単に片付けることができない。

人は、十人十色。いろいろいるからこそ、いいんだ。いろんな人といろんな風に関わって生きてくからこそ、面白いんだ、と思う。でも、「面白い」だなんてのんきなことを言われるのは、外野だから言えるんであって、もし自分がその当事者だったら、そりゃあやっぱり、シンドイよね。

『源氏物語』で、自分を再確認してみるのもよし。生き方のヒントを見い出すもよし。ところで、人間、年をとれば丸くなるという。また、経験を積むことで人間に堪えるとも聞く。でもホントは、いつも大らかな優しい気持ちでいられるといいよね。人生は一度きりなんだもの。同じ時代に生きる者どうし、この世のはかなさも胸の奥でちょっぴり感じながら、なるべくみんなが仲良く暮らせようように…。

紫式部が生涯を通して伝えたかったのは、案外そんなことなのかもしれないね。

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

山梨に住み続けていると、山梨の良さがわからない。ところが余所で暮らしていると、ふるさととは子供時代の記憶と重なって、自分の人間形成にいかに関わっているかを思い知らせてくれるらしい。したがって、貧しい食事の思い出も、自分の頭脳に貢献してくれたのだと、感謝の念に変わってもいいらしい。

医学者でもあった作家の木々高太郎は、「雑穀に感謝する」との文章で、中学時代の生活を振り返り、学校の弁当には白米をつめていったが、朝と夜はトウモロコシなどの雑穀で、「友達には、雑穀などは食べていないと、いつもそうをついていたが、内心では、雑穀の生活が不満でもあり、はずかしくもあった」と苦笑する。

ところが大脳生理学という学問をす

るようになって、このはずかしさは、ひとつの感慨へと変わっていく。

「雑穀を食べていたことを、感謝するようになった。白米を食べていると、人間の頭はだんだん悪くなる。それは、ビタミンB類がはいっていないので、頭を

頭が良くなったのは
「雑穀を食ったお陰」と、
何でもふるさととは
有り難いものらしい

働かせるためのたいせつな物質が頭の中で製造されないからである」という理屈を披露するに至るのである。

医学的な分析はおいて、この白米を敵視して「頭はだんだん悪くなる」というものの言い、面白さと、ふるさと意識を感じたい。

木々高太郎は、明治30年(1897)に旧山城村、現在の甲府市に生まれている。本名は、林 隆。医者の家系で父は6代目。湯田尋常小学校、甲府中学校を経て、慶応義塾大学医学部に入学する。科学・医学評論家として活躍するかたわら37歳で探偵小説としての処女作を発表、昭和12年には「人生の阿呆」などにより第4回直木賞を受けている。

著作は多いが「故郷とその中学」では、甲府の景観や、少年期の記憶などが描かれていて、力説口調の部分もあるので、紹介したい。これも、ふるさといゆえの文章である。

「私たちは世界一偉いのは武田信玄だと教えこまれてきました。それに反撥すると学校の先生や先輩からひどくどやされた記憶があります。しかし信玄は戦国時代の地方の一武将にすぎません。世界史の中で、本当に人類の誇りとするに足る人物を模範として若い学生生活を送るべきでしょう」。

参考資料：木々高太郎全集／朝日新聞社

Book

甲州からの視点で一葉再発見 「一葉の雲」

江宮隆之 著



甲州人を父母にもち、東京の真ん中の「甲州村」に育ち、誇り高く、侠気に溢れた樋口一葉。その一葉を「甲州」の視点から新たに読み解いた一葉再発見の書である。

題名の「一葉の雲」は、作品「ゆく雲」が甲州を舞台にした小説であり、甲府の新聞に発表されたことにちなみ、また、祖父、父、一葉と、甲州人3人が甲州と江戸、東京を往来した姿を、流れる雲とイメージしてのものである。

「甲州女」として一葉を見立てていこうというのが、本書のこだわりである。「ひとりの偉大なる人物を創るには百年かかる」の言葉のとおり、一葉の家系をさ

かのぼり、先祖の甲州での暮らしと意志を明らかにしつつ、東京育ちながら一葉が、いかに両親の肉声に甲州女としての血を揺るがされたか、また、性格がかたちづくられていったか、やがて一葉自らが、強くそのことを自覚するに至ったかを解いていく。

ドラマと語り手の設定で、事実と仮定との距離感が、読みごたえを奥行きのあるものにしている。何よりも、分かりやすく、作者の思いも実感できる。読者もまた、自らの想像力をもって参加できるという趣向となっている。あわせて「甲州人」とは何かも垣間みられる。(川)

河出書房新社 ¥1800

滝を見るハイキング

vol.6 いしうとろがわ 石空川 精進ヶ滝
写真と文 上野 巖



新緑に包まれる精進ヶ滝（上）とはしご滝



一の滝はすぐ脇を登るので手にとるように見える

石空川は、鳳凰三山の北端、地藏ヶ岳北西面の水を集めて北に流れ、武川村柳沢地区の西で大武川に注ぎ込む清流である。全体の水平直線距離は、地藏ヶ岳の頂上から測っても、たった9kmしかないのだが、その曲折、高度差はすごいもので、9kmの何倍になるか見当もつかないくらいだ。

国道20号を武川村牧原の四つ角で左折、柳沢手前の三叉路も左に入る。坂を登って甲斐駒カントリークラブの入口を左に見送ると精進ヶ滝林道になるので、それをぐんぐん登る。やがて右手に立派な吊橋（精進ヶ滝橋）が見え、駐車場がそのもとにある。

吊橋を渡って左岸の遊歩道を少し進

むと、対岸のやや高みに、世界第一級ともいわれるフォッサ・マグナの大断層露頭が見える。帰りにゆっくり見学しよう。コースは林の中を少し歩き、すぐに一の滝の下に出る。小さな橋を渡って右岸の鉄製の階段を登る。真横から眺める一の滝は迫力がある。

二の滝の下で左岸に戻り、しばらくでまた右岸に移って今度は大きな石に架けられた鉄の橋で夫婦石を見ながら左岸に戻ると、間もなく終点の滝見台に着する。下部の九段の滝（別名、はしご滝）の上に、本命の精進ヶ滝が見事な瀑布をかけている。

晴れた日には、遠く高根町辺りからも展望できるこの滝の落差は、121mもある。



フォッサ・マグナの大断層露頭



大きな吊橋「精進ヶ滝橋」

り、南アルプス山中、いや、県内でも第1位に推せる名瀑といっていいたいだろう。ただ滝見台からの精進ヶ滝は、残念なことに上部半分しか見えない。

※6月上旬、落石事故のため精進ヶ滝へ行く橋が破壊され通行不能になりました。詳細は武川村役場に確認して下さい。TEL0551-26-2111

参考 タイム	牧 原	駐 車 場	一 の 滝	滝 見 台
	→	→	→	
	車で30分	30分	40分	

甲府通運前史を訪ねる（10）

〈甲府通運のページ〉

我国最長だった 笹子トンネル工事と早野金蔵

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・歴史編纂文化財担当



笹子隧道西口竣工 隧道は開通したがレールはまだ敷設されていない

今日の土木技術の進展はハイテク導入により、明治時代では想像も出来なかった。明治29年（1896）に中央東線の工事がはじまり、小仏と笹子の峠にトンネルを掘るということは当時としては大問題であったといわれている。笹子の場合には、わが国ではじめてといわれる電力を動力として工事を進めたことによりこの問題を乗り越えた。

早野組の創設者早野金蔵は、まさに当時としては画期的なこの工事に従業員のリーダーとして参加している。

「早野と笹子トンネル」についてはすでに何度もとりあげたが、今回は、このトンネル工事に目をむけてみよう。

「山梨の鉄道（笹子トンネル）」と題する山梨日日新聞昭和62年4月22日号によると、

「古川（鉄道作業局八王子出張所長）にとってラッキーだったのは、着工と同じころ欧米から各種のハイテク建設機器が導入され始めたことだった」。

「従来トンネル工事に使用する動力は蒸気機関であった。しかし、古川は笹子トンネルで全面的に電力の採用に踏み切った。東口では笹子川の2ヵ所に125ボルト120アンペアと、550ボルト90アンペアの2台の水力発電機を設計、導

坑内に電気照明を行い、わが国で初めての電力による空気圧搾機、削岩機を使用した。それ以前は坑内空気の汚濁を浄化するのに、坑外で唐箕を回転して木製管で送風した。

しかし効果は少なく、カンテラ照明は酸素欠乏でしばしば消え、ツルハシで手掘りの工夫も2、3時間で交代せざるをえなかった。この障害は電灯、空気圧搾機、削岩機の導入で解消され、工事は飛躍的にスピードアップした。さらに画期的だったのは、ズリと呼ばれる導坑内で掘削した岩石を搬出するのに、日本で初めて米国製電気機関車を輸入して運転したことである。従来手掘りに頼っていた日本のトンネル掘削技術は笹子トンネルを契機に機械化の方法を確立した」。

「明治30年には山梨県下に赤痢が流行し、工事現場でも職工、人夫がバタバタ倒れ、再募集も困難となる障害が起ったほか、31年には経済界の恐慌のあおりで政府が工事予算を縮小し、中央線工事でも中断に追い込まれてしまった。

工事請負の有馬組が被った苦難は並大抵なものではなかった。」

「中断した工事は32年度になって再開（中略）工事に従事した職工、人夫は延べ195万8千人余りに及んだ。また、工事中の死者5人負傷者94人だった」。

「この工事が縁となって甲府で建設会社を創業した人夫頭がいた。甲府市東光寺、総合建設業早野組の初代早野金蔵である。そのころ土木労働者の気風は殺伐として暴力沙汰が絶えず有馬組も万一に備え、東京でドスを買って現場へ輸送していたというから、人夫頭の力量は相当なものだった」。

当時の職工人夫雇請負有馬組の代表森清右衛門は、工事竣工に際し、鉄道作業局より異例の賞状を授与されているが、その功績も、彼の下で実際に腕をふるった早野金蔵の手腕と力量によるものであった。

手入の行き届いた ハイエース・バンを通じて知る 細やかな職人氣質

有限会社 井上工務店



大月市の岩殿山をぐるりと北へ回って、少し行ったところ。夏に向けていよいよ勢いを増した山の緑が、すがすがしい。どこからか聞こえてくる沢の音も、ほてった身体を充分癒してくれそうな、気持ちのいい場所だ。

今回取材でお伺いしたのは、有限会社井上工務店。平成3年3月に創業し、従業員は現在20名。都心へ近いというメリットに、持ち前のフットワークを生かして、山梨に八王子、神奈川とかなり手広く営業している。「車は、そうした現場への通勤用として欠かせませんよ」と社

長。井上工務店で使用しているトヨタビスタの車は、ハイエースのバンが2台とクレスタが1台。「年間で3万Kmは軽く越えます。でも10万、20万と乗っても、一度もウチのは故障しない」という。それだけ手入れがよいのだろう。みると、よく乗っているわりには傷跡ひとつない。乗る人たち(使う人たち)の性格が表われているといえよう。「みんな真面目でよくやってくれる」という社長の言葉になるほどと納得できる。

業務は構造物関係が主体で、土木の

中でも高い技術を要する石積みや二次製品の敷設などが得意分野。公共工事と民間工事の割合は、半々だそう。「今請けている多摩八王子霊園の仕事でも管理人さん大変喜ばれて、やっぱり井上さんでなきゃ、と言ってくれました」とうれしそう。形として後に残る仕事だからこそ、見る人が見ればすぐわかるというわけだ。発注する側からしても、安心できる工務店、信頼できる職人の方がいいに決まっている。

庭に置かれた石作りのテーブルセットは、仕事がうまく、スムーズにいった達成感をみんなで祝い、互いの労をねぎらい合うためのもの。一日の仕事が終わって帰ってきたときに、ここで乾杯するのだそう。そうした温かい気づかいもまた、チームの心がまとまってゆく秘訣なのではなかろうか。

「仕事を任せることで、若い人達が責任をもってやってくれるし、何よりも意気込みが違います」と専務。若いスタッフはまだまだ募集集中とのこと。

家族ぐるみの気さくな雰囲気満ちた井上工務店、良き波長が集まってこれからもますます繁盛していきますように。
〒401-0001 大月市飯岡町畑倉2045
TEL. 0554-22-5372



井上工務店のみなさんとビスタ都留店の亀田さん

プロの写真家が 自分の目で確認した 安心構造と親子職人の冴え

上野 巖さん宅 (甲府市)



緑が丘スポーツ公園の近く。家の北側は人も車もひっきりなしに行き交うという、にぎやかな街中に上野さんのお宅はあった。玄関に通されてすぐ、ほんのりと甘い香りに気持ちがホッと和らいだ。オイルウォーマーのローズマリーである。

昨年11月末に完成したとはいえ、もうかなり馴染んできているように思えるのは、ご主人の意向がふんだんに取り入れられているせいではなかろうか。トヨタホームの「メレーゼ」。山岳写真家である上野さんは、職業柄、必然的にパネ

ルや機材などの所有物が多い。「そのため1階はリビングと階段下に、2階にも1つ、それらを取めておくための専門の部屋をまず考えた」という。全部で47.5坪。「間取りを決めるのに敷地の形状も影響したが、結果的にうまくいった」と満足そうに話す上野さん。書籍がぎっしり並ぶ仕事場兼用のリビングでは、外の喧騒が嘘のように静かだ。アイボリーの壁と白いカーテンも明るく落ち着いた雰囲気を出し出す。掃きだしの窓から見える庭木も清々しい。「お陰でこの間の真夏日といわれた日にもエア

コンを入れずに充分快適だった」そう。

各地の山々を歩き回っている上野さんは、「方位などは全然気にしない。それよりも居心地のいいのが一番だね」といかに山男らしい。収納庫を覗かせていただいたら、自分で後から作ったという棚に道具類がとてコンパクトにまとまっていた。「建築中は隣の貸店舗がちょうど空いていたので、そこから毎日じっくりみさせてもらった」と上野さん。コンクリートに鉄骨が組み込まれた強固な基礎をみて「これなら安心だ」と思い、自らも写真に収めておいた(写真・参照)。また、親子でやってきた下請け職人が、枠に生コンを流し入れる際、周りを汚さないようにちゃんとビニールを巻いていたことにも「仕事が丁寧だ」と感心していた。

やはりプロの写真家は、同じひとつの物を見るにしても捉えどころが違うよう。家は人なり。端正で本格を好む人の住まい、上野家はまさしくそんな家であった。



会いたい人から 会いたい人へ
 知りたいことから 知りたいことへ
 リレーでつなぐエッセイ

「住めば都」



植松 光宏

うえまつ みつひろ

山梨文芸協会会員

「住めば都」という諺があるが、ここ甲府・古府中町に住んで15年、片田舎で、買い物や交通に不便をしているものの、歳月を重ねてくると「住めば都」の感がする。

越して来て数年は、近くに付き合う人もなく、何となく「借りてきた猫」的存在であったが、子供クラブやPTA、自治会活動を通し、徐々に友人も増え、今はこれらの仲間と人間関係も深まり楽しく付き合っている。

それに「向こう三軒両隣り」の言葉の通り、旅の土産を買ったり遣ったり、イベントに参加し意気投合したり、肩ひじ張らないお付き合いが、連帯感を高め、「住めば都」の一番の要因であるように思える。

◇

さて、JR甲府駅北口からタクシーで家に帰ることが多い。乗車すると運転手に「どちらまで」と行き先を尋ねられる。古府中町までと答えると、決まって斎場の方ですか？、武田神社の方ですかと問い直される。神社を過ぎ相川小学校先までと説明し、わが家に降り着く。飛地という程でもないが、古府中町は二つに分かれているから、運転手とこんなやり取りが生まれる。

昭和37年、甲府市住居表示整理事業がスタートし、その第1期事業として甲府駅北口以北一帯が新町名に変わった。武田信虎がここ古府中躰躰が崎に館を構え、開府以来永々と栄え続いた由緒ある町名が、突然変わったのだから堪らない。驚きを越え、憤懣やかたない。今も気持ちは変わらない。

武田氏の家臣団が居を構え、それを囲むように、各種の職業集団が住み形造った城下町甲府。細工町、畳町、大工町、堅町、深町、等々、無形文化財ともいえるこれら町名が無惨にも新町名へと変わった。

この事業は、第2期が甲府市中心部、第3期が北西部と続き、これまで7期まで進み、市街化区域の80%強が実施済みとなり、一応事業は完了した。

◇

古府中町は市街地の中であって、とりわけ広域に町が広がっていたため、対象地としていち早く実施された。古府中町の内、字宮前は宮前町に、字増山は増山町に、字正永は天神町にと変わった。この場合、字名をうまく町名に生かしたから、一応納得出来るが、古府中町の大半は意味合いの少ない、

北新一・二丁目、西田町、屋形一・二・三丁目、大手一・二・三丁目にと変わった。

幸いに、武田神社周辺と斎場周辺は、当時、今日ほど市街化が進んでいなかったの、町名変更の対象とならなかった。古府中の名が残ったものの、町は二分された。それでも、今となっては救われた感じがする。

わが家は、字名を御馬屋小路という。武田家の馬を飼っていた所だという。馬を飼っていたという痕跡は認められないが史実に近い。

新田次郎著、小説「武田信玄」の冒頭は下記の文章で始まる。

「晴信は石水寺へ馬を走らせるのが好きだった。ここは彼が生まれたところであり、武田の館のある躰躰が崎から、馬を走らせるのに丁度よい距離でもあった」

「住めば都」の二番目の要因は、古府中町字御馬屋小路の名に由来があるように思える。

先人達が営々として築いてきた歴史や文化、あるいは苦しみ耐えぬいてきた気候風土が刻まれている地名は、郷土の「文形文化財」である。

“人と生きるのが好きだから”
 思いきった行動に示される
 壮快で鷹揚な人間性

トヨタホーム山梨株式会社 取締役 保坂 幸 さん（甲府市）44歳



1700冊を17,000円で売る潔さ

いきなり何の話？と首をかしげる人もいるかもしれないが、1700冊とは保坂さんが2週間ほど前に売った本の数。17,000円はお店側から提示されたその買い取り金額のことである。

トヨタホーム山梨に勤める保坂さんは、この住宅業界では大ベテランだ。体調を崩しいったんはこの業界から離れようとしたが、再び住宅営業の仕事に就いた。実力を大いに見込まれてのことと察しはつく。

そして今、社内ではブレイクマネージャーという、自らも販売しつつ部下の指導・育成を行う重要な職責にある。

保坂さんいわく「部下の育成は花を育てることに似ています。部下は種で、育てるのが上司。種自身の持つ素質を大きく開花させるための手助けをしてあげるのが上司の役目」。

そこでちょっと意地悪な質問を一つ。もし時代が今までみたこともない新種を生み出していたら？ すると「わぁキツイなぁ」とにこやかなリアクションの後、先ほどの本の話となったわけである。「過去の物に囚われていると新しい物の見方ができませんから思いきって捨

てたんです」たとえどんな新種であってもふさわしい方法を見出したい、という彼なりの意志表明なのだろう。心憎いほど頼もしいマネージャーである。



一朝一夕では得難いバックボーン

それにしても学生時代から読んできた本が1700冊とは聞いて驚く。とても頭が上らない。でも中には思い出深い本だってあったろうに。

すると保坂さん「物やお金よりも、人を重視したいんです。人がいて始めて世の中動いていくんですからね」そしてまた「仕事も契約できない時こそ、勉強になる」という。自分に何が足りなかったのか謙虚に反省して、次に生かしていくんだそうだ。

物事をよく考える人だな、と感じた。よく考えるということは、その分手間がかかるし厄介だ。だから怠け者はつい避けて通りがち。いいや、適当でと。この適当というのあいまいな言葉で、人それぞれ基準が違う。心の中でどこまでのラインを良しとするかは、全く本人次第なもの。保坂さんは事あるごとに立ち止り、考えては、より良いラインを見極め、常に最善策を追求してきたのだろうと予想できる。

本の話からしても、恐らく決断の指針となり得るバックボーンに恵まれていたのだろう。

仕事帰りに飲みに行ったり、休日にゴルフへ行ったり、一見すると普通のビジネスマンだが、十把ひとからげにして安易に評価することはできない。伊達に年を重ねてない、鷹揚な人間性を保坂さんに垣間みた気がした。

【取材：原田陽子】

おしゃれ

グランパーク シュープラザチヨダ



営業時間 11:00~21:00
定休日 月に1日
所在地 甲府市国母5-8-1
グランパークB棟1F
TEL 0552-23-6264



広さと品揃えが“満足”を呼ぶ グランパークで話題のショップ

「シュープラザチヨダ」は、靴業界では売上ナンバーワンの実績を誇るチヨダの一部門。あの「東京靴流通センター」も同じ傘下に入るディスカウント部門だ。全国に26店舗ある「シュープラザ」の中では、路面店の方が多く、テナントとして入っている方が少ないというが、お店の売り場面積は約120坪と県内有数の広さ、取り扱いアイテム(品番総数)は優に1万を越えるといえば、どれほど充実しているかおわかりいただけるだろう。

子供靴、紳士靴、婦人靴に、スリッパやサンダル、ブーツなど品揃えもバラエティに富んでいる。全体の構成比で4割を占めるといふスニーカーコーナーは、デザインや機能がよりどりみどり。価格も下は3ケタから上は5ケタまで、実に幅広い。

リーズナブルなものがあれば、ブランドものも揃っているのがTPOに合わせて、お気に入りを探したい人にはもってこいの店だ。

さらに、お買得な会員特別割引が受けられるメンバーズカード(入会無料、正札より1割引)を利用して、賢く楽しい靴選びを試みてはいかが。きっとあなただけの一品が見つかります。

早くもにぎわうそば屋で 道を極める職人の心意気に納得

「千寿庵」は、10年ほど居酒屋をしていた山本徳昭さん(38歳)がこの4月にオープンさせたおそば屋さんだ。以前からそばが好きで、あちこち食べ歩いては独自に研究を重ね、ついに念願を叶えたことになる。機械は一切使用しない純手打ちで、今では90%が輸入といわれるそば粉も、知り合いの協力を得て貴重な国内産を入手することに成功した。

だしに使うのは鹿児島から取り寄せる上等の鰹節。そして、蒸留したマイナス20℃の化粧水と、手打ちのそばを最後に洗って締める水にまでこだわっている。おすすめはもりそばとかけそば(税込みで各550円)。また一日10食限定の長野大町産のもりそば(800円)も、開店してすぐ売り切れてしまうほどの人気なので、ぜひ一度は食べてみたい。「そばは、その人その人の食べ方でいいと思うんですよ。とにかく目で見て、鼻で嗅いで、舌で味わえば最高です」とご主人。シンプルだけに奥の深いそば。ツウを気取るなら「千寿庵」のそばを食べずには語れない。



営業時間 11:30~14:00
17:30~21:00
(ラストオーダーは20:30まで)
定休日 月曜(第3のみ)、月休み
所在地 中巨摩郡玉川町井之口909-7
TEL 0552-73-1999

お茶の間の民俗学(8)

—ふるさとの心と味(3)—

水口祭と「やこめ」

志摩 阿木夫
し ま あ き お
民俗学研究者

水口祭

麦刈りが終わって一段落すると、いよいよ田植えの準備が始まる。今ではすべて省力化されて、田植えといってもそれほどの苦労もなくなっているが、その分、緑の風が吹き渡る広々とした水田に、この季節の風物詩となっていた早乙女の姿も、秋の収穫に胸をふくらませて、田の畔を走りまわる人びとの姿も見られなくなって、季節感も味気ないものになってしまった。

時の流れに背を向ける必要もないが、それにしてもこの季節に相応しい風景が、遠い日の郷愁となってしまったのは寂しいことである。しかし、それでもこの目で確かめた過ぎた日への思いは、いつまでも心に残っている。

田植えといえば、その前に苗代づくりという作業があった。持田の一角に水を張って、そこへ種籾を蒔いて稲苗を育てる作業で、この作業をする日を祝うのが「水口祭」である。読んで字の通り、苗代とする田に水を引き入れる水口の祭りである。

祭りの朝、農家の人たちは早くから苗代田に出て、田の畔に小さな盛り土の祭壇を作り、そこへ青木の枝や野山の花を飾り、小正月に炊いた小豆粥の粥かき棒を突き立て、田の神様の依代とし、「今年も豊作でありますように」と祈る行事である。この行事につくる行事

食が「やこめ」である。「やこめ」は田の神様に供えた後、田の周辺に撒いて野鳥たちに施して、苗代に蒔いた種籾を食べないようにと諭す呪術としたり、近所の子供たちに配って、稲がこの子供たちのように元気で育って欲しいと願う心とした。

やこめ

漢字で書くと「焼米」であるから、正しい調理の方法は、前の年に収穫した稲の一部を種籾として保存しておいて、この水口祭りに苗代に蒔いた残りの種籾の籾皮を取ったものをホウロクという調理器具で煎ったものである。香ばしくて固くたえがあっておいしいものだが、山梨という「やこめ」は調理の方法が異なっている。

その理由は、山梨は山国で水田の面積が少ないので、前の年に収穫した稲から種籾を取る量も少なく、当然苗代に蒔いて残るほど確保できないので、それに代わる行事食として、前の年に収穫した米に大豆を加えて炊きあげた、いうならば大豆混ぜ御飯のようなものを「やこめ」と称している。

水口祭りの前の晩に餅米をひたし、別に大豆を煎ってこれも水にひたして

置き、翌朝米と大豆を混ぜて醤油または塩味の素材を加えて炊きあげるといふものである。大豆を煎ることで「焼米」に近い意味を持たせ、かつ大豆を入れることで米の量を少なくすることができるということになり、米の尊い山国の人たちの生活の知恵でもあった。

もちろん水口祭りのあと、家族全体で食べる神人共食の行事食ではあるが、自分たちだけの喜びに留めず、町場の親類や周囲の非農家の人たちにも配る。農民の素朴な、そして優しさも一緒に炊き込める「やこめ」は、それだけでも深い味わいがある。水口祭りはもう殆ど絶えてしまったが、「やこめ」は今でも季節の料理として作られている。



ガソリン・スタンドの習慣の違い

・所が変われば税金も変わる…隣の町で税金が変わると？

マスコミの芸能ねた

・日の当たる場所と 当たらない場所



×月×日

オレゴン州、ポートランドにて自動車を運転した。「驚いたのは、ガソリン・スタンドで、店員がガソリンを入れてくれた事であった」、と言うと奇妙に聞こえるだろうが、アメリカのスタンドは、ほとんどが自分でガソリンを入れるシステムになっているからである。これは、セルフ(Self)のガス・スタンドと呼ばれている。

例えば、私が居るカリフォルニアでは、店員が外に出ている事は希である。初めてアメリカで自動車を運転した時、自分でガソリンを入れなくてはならないと言う事は、かなりのカルチャー・ショックだったが、今では、「これは人手を煩わせずに自由にできる合理的なシステムだ」と思っている。

ガソリン・スタンドの中には、お金持ちのために、日本のようなフル・サービスを用意している所もあるが、料金がかなり違うし、チップも払わなくてはならないし、大体そんなスタンドは、探すのに苦労する。アメリカでは、全てそうだ、と思っていた。(私は、オレゴン以外の、中西部の都市は、かなり車を使って旅行した事がある)

隣国土の、オレゴン州とカリフォルニ

ア州でこうも習慣が違う。税金のシステムも、違っている。アメリカでは、州政府の税収の主力は、日本で言うところの消費税(Sales Tax)で、州によって異なる。オレゴン州は、この消費税率がゼロである。その代わりに、固定資産税が高い。

ポートランド市の隣は、ワシントン州シアトル市で、そちらは、消費税があるが、固定資産税が比較的安い。人に聞くと、「お金持ちは、シアトルに住んで、ポートランドに買い物にくる」(固定資産税のない都市に住んで、消費税のない都市で買い物をする)とのことであった。

×月×日

友人が「日本では、某女流棋士の愛人問題でもちきりです。先生も気を付けて」という手紙をくれた。私のほうは、とんと女性には縁がなく、結婚相手さえいないのに愛人などいるわけがないのだが、某女流棋士の事は、その筋の人(と言ってもやくざではありません)から聞いていたので、同情せざるをえない。

女性保護とか、愛人が悪いとか、そういった一般的なことではない。彼女は、子供のころからずっと、みんなに注目されて生きてきた。ここ数年、某団体から

追い出されて、全く何の活躍の機会も与えられないのは、耐えられないだろう。これが江戸時代ならば、お金も貯まったし(十数年前には、彼女の書いた少女向けの小説は、数十万部以上売れていた…売れっ子作家と言える)、あとは静かに暮らします、となるところだが、これは現在である。古い言い方だが、バリバリのキャリアOLなどは、窓際に追いやられると、やれ「女性蔑視だ」「セクハラだ」と騒ぐ時代である。耐えられるはずがない。

アメリカに出かける時には、某元男性歌手の書いた本が話題になっていて、アメリカで大統領のセクハラ事件が話題になっていた時であり、「最近の男女関係はこんなのばかり!馬鹿馬鹿しい」と思っていた。

植物には、日の当たるところに出すと枯れてしまう物もあれば、直射日光に耐える物もある。人間にも、同じ事がいえる。どうも最近は、「もっと光を」と言う具合で、結果的に醜い物ができているのではないかと思う。紫外線も強い事ですし…

などと考えていたら、「松田聖子の再婚報道」にまたびっくり。

[文:杉村 聡]